

大腸内視鏡検査のすすめ

市民病院
総合診療科診療部長兼
内視鏡センター診療部長
医師 中村一平
監修

ID 751376216 (ほのか診察室)
問合せ 市民病院(代表) TEL 22・2171

■増加傾向にある大腸がんの死亡率
日本人の死亡原因の第1位は男女ともに悪性新生物。悪性新生物の内訳で大腸がんは、男性で第2位、女性で第1位と年々増加傾向となっています。
大腸がんは早期に治療を行えば完治が期待できるため、検査を受けて早期発見することが極めて重要です。

■大腸がんを早期に発見するために

大腸がん検査の第一段階として「便潜血検査」が広く用いられています。大腸からの出血の有無により、大腸がん、大腸炎、大腸ポリープ、痔などの病気を簡便に調べられる検査です。

血便や便通異常(便が細くなったり、下痢や便秘を繰り返す)などの症状が出始めたときには、本格的にがんが進行している場合があります。そのため、それらの症状が出る前に「便潜血検査」を行い、進行がんになる前、つまり、大腸ポリープや早期がんの段階で早期発見することが重要です。

■便潜血検査が「陽性」だった場合

早急に「大腸内視鏡検査」を受けることをおすすめします。大腸内視鏡検査とは、肛門から盲腸まで内視鏡を挿入し、大腸

を内側から観察する検査です。

大腸がんはポリープが大きくなる過程で発生することが多く、大腸がんのもとになると言われています。大腸ポリープの段階で、早期に発見でき、内視鏡的に切除することで体への負担を最小限にしながら、大腸がんを予防することができます。

実際に大腸がんが見つかった患者さんの中からは、「便潜血検査が陽性だったけれど病院を受診しなかった。もっと早く検査すれば良かった」といった言葉も聞かれます。

■定期的な検診を

令和3年度に当院での大腸内視鏡検査を受けた853人の患者さんのうち、大腸がんが57人(6.7%)、大腸ポリープが326人(38.2%)と合計で約45%の患者さんに、がんやポリープが見つかりました。

1年に1回、便潜血検査を受

け、2回のうち1回でも陽性であれば、大腸内視鏡検査を受けましょう。また、50歳以上で今まで大腸内視鏡検査を受けたことのない方は、便潜血検査が陰性であっても大腸内視鏡検査を受けることをおすすめします。大腸ポリープは40歳頃からではじめることが多く、大腸がんの死亡率が50歳頃から急増してくるからです。

■早期発見・早期治療が重要

検診などで便潜血検査が陽性になった場合、あるいは、便秘や血便など何か気になる症状があった場合は、かかりつけ医に相談するか、当院の総合診療科を受診してください。

日本人の死亡原因別順位

- 1位 悪性新生物…………… 27.6%
 - 2位 心疾患…………… 15.0%
 - 3位 老 衰…………… 9.6%
- (2020年厚生労働省発表)